

## 「ゆきん子舞」

### 【品種の特徴】

- 出穂期及び成熟期は「こしいぶき」に比べ1～2日及び2～3日早い早生のうるち種。
- 耐倒伏性は強。
- 穂発芽性は易。
- ふ割れが発生しやすい。

### 【生育のめやす】

生育ステージ	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD)
最高分げつ期 (6月27日頃)	9.5～10.0	53～58	630～650	37～41
幼穂形成期 (7月2日頃)	10.5～11.0	62～67	570～590	37～39
2回目穂肥時 (7月12日頃)	11.5～12.5	77～82	490～510	36～38
出穂期 (7月25日頃)	12.0～13.0	—	470	36～38
成熟期 (8月31日頃)	—	稈長85	—	—

### 【収量構成要素のめやす】

目標収量	720kg/10a
穂数	470本/m <sup>2</sup>
一穂粒数	77粒
m <sup>2</sup> 当たり粒数	36,000粒
登熟歩合	88～90%
千粒重	22.3～23.0g

### 【主な作業と生育ステージ及び管理のポイント】

時期	4月		5月				6月				7月				8月				9月	
	20		10	20			10	20			10	20			10	20				
主な作業と生育ステージ	は種		田植え				中干し				穂肥		穂肥		落水				収穫	
											幼穂形成期		出穂期						成熟期	

基肥施用	田植え	中干し・溝切り	病虫害防除	穂肥施用・水管理	収穫・乾燥・調製
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基肥窒素量は分施の場合は7kg/10a、全量基肥施肥の場合は13kg/10aをめやすとし、ほ場の地力に応じて加減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田植えは5月上旬に行う。</li> <li>・栽植密度は60株/坪以上とし、1株苗数は3～4本とする。</li> <li>・鳥害を回避するためほ場の団地化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中干し・溝切りを実施し、一度田面を固めて収穫時の機械作業が可能な地耐力を確保する。</li> <li>・中干し後出穂前は稲体活力が低下しないよう、土壌を乾かさないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉いもち防除は、育苗箱施用等により必ず行う。</li> <li>・葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行う。</li> <li>・穂いもち防除は、予防防除を行う。</li> <li>・斑点米カメムシ類の防除は、草刈り及び加害種に応じた薬剤防除を行う。</li> <li>・紋枯病防除は、前年の発生が多かったほ場では予防防除を行う。</li> </ul>	<p><b>【分施】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・穂肥は出穂期25～23日前(幼穂形成期・6月末頃)と14日前の2回に分けて施用する。</li> <li>・1回目の穂肥量は窒素成分で3～4kg/10a、2回目を2～3kg/10a、合計6kg/10aをめやすとする。</li> </ul> <p><b>【分施・全量基肥】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂期頃までは葉色(SPAD値)36以上に保つ。</li> <li>・出穂期25日後まで飽水管理を基本とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫適期は積算気温950～1,000℃をめやすとし、黄化割合が90%になった頃とする。</li> <li>・胴割粒の発生を防止するため、乾燥は適正温度で行い、急激に乾燥させない。</li> </ul>